

令和3年度 第1回香芝市男女共同参画推進委員会 議事要旨

1. 開催日時：令和3年7月16日（金） 午後2時～4時
2. 場所：香芝市役所会議室棟 第6会議室
3. 議事
※■：事務局より説明 / 主な意見：○委員、●事務局

(1) 委員会への諮問について

■事務局：案件説明（資料1）

<市長から委員会へ諮問書の交付>

○会長 様々な立場から審議していただき、プランが出来上がるまでよろしく願います。

(2) 市民意識調査・事業所アンケート調査の実施報告について

【市民アンケートについて】

■事務局 案件説明（資料2-1、資料2-2、資料2-3）

○委員 市民意識調査の回答者が、市民の1%くらいしかないのに、なぜ2,000人にしぼったのか。

●事務局 全数調査が理想だが、そうでない場合は、無作為抽出で対象者をしぼってアンケート調査をする。対象者は1,000人程度でも十分であるが、香芝市では慣例的に2,000人にしており、統計的にも信頼性のある結果になる。

○会長 回答者属性はどうなっているのか。

●事務局 資料2-2のP.31に記載がある。女性が多く、70歳以上の回答者が多くなっている。

○委員 若い人が年齢を重ねるとどうなるかという推測もできるか。今後の傾向という意味でも有効なのか。若い人たちの数字から、例えば5年後の香芝市がどうなっていくのかという見方もできるのではないか。

●事務局 年齢ごとのクロス調査をすることで、現時点のそれぞれの年代の傾向をみることはできる。

○委員 前回と比較して、今回は回答率が減っている。何か原因は考えられているのか。

●事務局 香芝市で様々なアンケート調査を実施しているが、全体的に年を追うごとに回答率は下がってきている。

- 委員 WEB回答も前回から導入しているが、その効果はあるか。
- 事務局 今回WEB回答は100件ほどあった。WEBがあったことで、回答率もここまで伸びたのではないかと考えている。
- 委員 男女共同参画の用語の知名度に関する質問について、前回と問い方が違ったということだが、今回はどう変わったのか。
- 事務局 資料2-3のP.2にあるとおり、今回は男女共同参画に関するワードをいくつか並べ、そのうち知っているワードをチェックする形式であったが、前回(5年前)は「男女共同参画の言葉を知っていますか」という問いに、「はい・いいえ」で回答を求めている。その問い方の違いにより影響が出たのではないか。
- 委員 男女共同参画以外に、女性活躍や多様性などの言葉がどんどん増えていっている中で、男女共同参画の意味が薄れていっているのかもしれない。啓発に力を入れていく必要がある。
- 委員 いくつか年齢別に見たい調査結果があるのだが、年齢別に集計するというのはできないか。
- 事務局 要望いただければ、クロス集計結果を次回の会議に用意する。性別、年齢などとのクロス集計は可能。
- 委員 男女共同参画という言葉を知らない人がこんなにいる。男女共同参画プランという名前のプランを作ろうとしている。言葉を知ってもらうことは大事な事だと思うので、啓発に力をいれる必要がある。
- 会長 男女以外の属性もあるという議論があるとはいえ、知っているかどうか聞いた時、男女共同参画という言葉を知らないというようであれば、議論が始まらない。

【事業所アンケートについて】

- 会長 資料2-1の2調査結果について、再雇用制度がある事業者の割合が減ったのはなぜか。
- 事務局 前回(5年前)は「妊娠・出産・育児・介護を理由に退職した従業員対象の再雇用制度がありますか」という問いに対し「はい・いいえ」で回答する形式になっていたが、今回は資料2-3のP.26に記載のとおり、育児や介護との両立支援のために取り組んでいる事業を選択肢から回答する形式に変更しており、その選択肢の一つとして「再雇用制度」を記載している。質問形式の変更が今回の割合減につながっているのではと推測している。
- 委員 香芝市内に5人以上の事業所と5人以下の事業所は何か所あるのか。
- 事務局 5人以上の事業所は約900あり、5人以下の事業所数は次回報告する。
- 委員 フランチャイズの場合も含まれるのか。

- 事務局 本社を香芝市内に置いているかどうかではなく、事業所を香芝市内に置いているかどうかで判断している。回答者の62%が代表者となっているが、代表者は社長ではなく、店長や営業所長などが回答している。資料2-2のP.36の間3で区分がわかるようになっている。
- 委員 従業員にはパートを含むのか。
- 事務局 含む。
- 会長 P.4の間3市民意識調査で、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に対して反対する市民の割合が増えてきている。また、P.5家事育児について、夫婦同じだけ行っているという人の割合が、家事はほとんど変わっていない。しかし、育児は大幅に増加しているという点は大きな意味がある。香芝市民の意識が変わってきたことが見える。
- 委員 P.11の間9の回答で、実際に管理職についている方の回答と管理職にいたときを想像して回答している方の回答との区別はつくのか。想像で回答しているのか、実際に管理職なのかによって見えてくるものが変わってくるのではないだろうか。
- 事務局 管理職かどうかの区別はできない。就業の有無によるクロス集計は可能。
- 委員 調査結果は最終的に公表されるのか。
- 事務局 最終は計画書と一緒に、分析結果を記したアンケート調査の集計報告書という形でオープンになる。ホームページで閲覧可能になる。
- 委員 資料2-2のP.23、DVについては啓発の結果が出ている。男性の方が加害も被害もあまりDVを意識できていないという実感があるため、精神的DVに関する問いの男女比率が気になる。
P.24の間25で「DVを受けたことがない」という回答が多かったのは良いことだが、受けている自覚がない方がいるのではないか。ここにも男女差が出るのではないか。
問26「仕方がないと思ひ何もしなかった」という回答がまだ多いというところに注目した。男性にも結構被害者の方がいて、おそらく男性の方が被害を訴えにくいという現状があると思われる。
- 委員 調査結果報告書P.9の間8災害時の対応でどんな男女共同参画の視点が必要なのか、P.17～新型コロナにおける生活や行動、心身にどんな変化を及ぼしているのかについてのアンケート結果などは、自宅でも職場でも重要になってくる場所である。施策にどう組み込んで、災害時や非常時の対応をどうするのが重要になってくるのではないだろうか。
- 委員 男性のDV被害どれくらいあるのか。問26の回答は男女別に確認できるか。
- 事務局 可能。手元にデータがあるので報告するが、資料としては次回配布する。問25でDVを受けていると回答した方に問26を回答いただいている。

問26の全回答者数153人のうち女性103人・男性44人と女性の方が
多い。だが、3人に1人は男性。

- 委員 資料2-3のP.28、問33の異性に対する暴力という設問を、LGBT同士のカップルもいるので、次からは「異性」を「親密な関係にある」などに変えた方が良い。
- 委員 事業所アンケート49ページ、問15。ポイントとしては、「育児、介護に関する休業制度を設けている」を45.5%が取り組んでいる。これはとても良い事例。大変な中で取り組んできている事業所についてなど、ポジティブなところにフォーカスしながら啓発して行ってほしい。回答した経営者にとっても、そこで働く労働者にとってもよいのではないだろうか。
- 会長 今回のアンケートの中には記述式での答えもあったので、その回答結果は次回以降の会議で提供してほしい。今後は、アンケート結果を踏まえて、課題に取り組む施策を第三次プランとして策定していく。

(3)第2次男女共同参画プランの施策評価について

- 事務局 案件説明(資料3-1、3-2)
- 委員 実行目標の項目は、第3次プランにおいてもこのまま使うのか、項目の変更も含めて考えていくのか。例えば、問35「行政は今後どのようなことに力を入れていくべきか」という設問において、「啓発活動を充実する」の回答率が真ん中あたりなのに対して、啓発活動に力を入れるといった目標ではマッチしていないのではと思ったので、それも踏まえて目標設定して行ってほしい。
- 事務局 第2次プランの目標の達成状況やアンケートによる市民・事業所ニーズに合わせて考えていきたい。

(4)その他

- 事務局 案件説明(資料4)
今後のスケジュールについて

以上